

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成26年度 臨時評議員会 議事録

日時：平成27年3月14日(土) 13:00～14:15

場所：スタンダード会議室 五反田店

出席：＜評議員＞

片桐省三、田中雅之、藤原修、小野安壮、保坂明、沼澤宏、安齋司、池田照、田中敏郎、大野健男、齋藤徳也、半田真一郎、天野寛、真田功、山田洋司、松倉弘英、小林正三、林厚子、島澤司、門川浩人、後藤明、湯浅暢宏、新宅博生、岡嶋隆文、中澤亨、藤村昇、穂山靖夫、玉井尚樹、川武修、木下博順、山田司、近藤豊志、井手口孝、祖岩亨道、野田明宏、上元康正、木佐貫和昭、日越延利、市川数馬、荒井邦夫、有本功、小口賢司、北澤和基、白谷慶子、増島篤、宮地弘孝、森崎秀昭、和田雅也の各評議員
＜理事＞

梅野哲雄会長職務代行、丸尾充、西川和人の各副会長、河内敏光、熊谷秀樹、倉石平、小坂悦夫、佐々木三男、鮫島俊秀、品田奥義、庄司義明、西井歳晴、野村俊郎、橋本信雄、原田茂、福井晴次、堀井幹也、森野和泰、吉田長寿、吉田利治の各理事

＜監事＞

榊原みどり、高原洋太郎の各監事

＜特任委員＞

片山正明、坂本昌彦の各特任委員

欠席：岡田裕昭、遠藤嘉津敏、渡邊正知、横山俊幸、宮倉義輝、宇田川貴生、中村哲夫、大塚英彰、加藤裕三、安田勝彦の各評議員、

星芳樹専務理事、青木隆、岸本和巳、高橋雅弘、林直樹の各理事、内山英司、小倉恭志の各特任委員

オブザーバー：境田正樹弁護士(タスクフォースメンバー)

議 題

- (1) 平成27(2015)年度事業計画・収支予算について
- (2) 基本規程の改定について

1. 定足数の報告

吉田総務部長より定刻における出席者数の報告があり、定款第16条第2項に基づき、評議員総数(58名)の過半数の出席(出席:48名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

2. 挨拶

梅野副会長(会長職務代行)より開会の挨拶があった。

3. 議長選出

吉田総務部長より、議長選出にあたってはこれまでの評議員代表者による協議を受け、議長に東日本・青森県

の田中雅之評議員、副議長に中日本・奈良県の岡嶋隆文評議員および西日本・岡山県の穂山靖夫評議員が推薦され、承認された。

4. 議事録署名人選出

議事録署名人については、定款第19条により議長および出席評議員の代表2名以上が必要になることから、議長より議事録署名人として半田真一郎評議員、玉井尚樹評議員が推薦され、承認された。

5. 議事

(1) 平成27(2015)年度事業計画・収支予算について (吉田(長)理事)

平成27年度の事業計画について、次の年度方針および重点実施事項、さらに、タスクフォースに関連する準備・対応、年度方針に基づいた活動計画が資料に基づき説明があった。

◇方針

- ・「JBA2010宣言」によるJBA理念、JBAビジョンを念頭に置き、「100周年への目標」に向けて各事業諸施策の確実な実行
- ・2020年東京オリンピックの自力出場を目標とした強化策の着実な実行
- ・2017年ワールドカップ予選(ホーム&アウェイ方式)に向けた事業企画
- ・各種施策への積極的かつ戦略的広報活動の実現
- ・2016年シーズンより男子プロリーグ設立に向けた対応

◇2015年重点実施事項

- (1) 2020年東京オリンピック出場に向けた男女強化関係
- (2) 男子プロリーグ設立に向けた諸活動
- (3) JBAガバナンス強化実現に向けた諸活動

続いて、収支予算については、昨年度修正予算をベースにして、2020年東京オリンピックに向けた男女日本代表強化を重点事業とし、さらにタスクフォース関連費用を見込んだこと。総支出は1,633百万円、総収入は1,628百万円、収支差額はマイナス5百万円、前期繰越見込み額を含む次期繰越見込み額は439百万円となる予算案が資料に基づき提案された。

なお、タスクフォース関連費用については、概算での計上であり、費用超過が見込まれる場合には補正または修正予算を実施すること、実際の予算執行においては効率的な運用を行い、最終収支均衡を目指すことが補足として説明された。

以上について審議の結果、賛成多数により原案通り承認された。

<承認>

(2) 基本規程の改定について (吉田(長)理事)

ブロック協会の定義(役割、権限等)を明文化するため、ブロック協会に関する基本規程の条項(第3章 所属団体 第69条、第84条～第89条)の改定案が資料に基づき提案され、賛成多数により原案通り承認された。

<承認>

6. 報告事項

(1) タスクフォース関連について（吉田(長)理事）

緊急対策本部の活動(これまでに10回開催)について、資料に基づき会議の要旨が報告された。

引き続き、タスクフォースメンバーの境田正樹弁護士よりタスクフォースの活動について次の内容の説明があった。

・明日の説明会ではタスクフォース・川淵チェアマンから考え方等の話があると思うので、それに先立ってこれまでの活動、業務の進捗状況等を説明したい。

・第1回タスクフォース会議で3つのワーキンググループを設置し、リーグに関しては、bjリーグやNBLの会議に出席して協力を要請し、3期分のリーグおよび全チームの財務状況のチェック、ヒアリングを行っている。

・新リーグについては、3月下旬のタスクフォース会議で3階層のリーグの参加基準を決定、4月1日に新法人を設置し、参加チームの審査を行って7月末に発表する予定。

・ガバナンスについては、理事会・評議員会のあり方などを検討しているが、FIBA・バウマン事務総長、タスクフォース・ワイスチェアマンも評議員会、都道府県協会を今後の発展のカギとして重視しており、議論を重ねている。自治体、スポンサー、チーム(バスケットボール関係者)を地域協会がどう取りまとめていくか肝要であり、それをどう改革していくかがポイントだと考えている。それに伴って評議員についてはブロック代表にしる都道府県代表にしる、透明性のある選出方法が求められる。

・タスクフォースの費用については、川淵チェアマンと私が精査した上で、プライスウォーターハウス(監査法人)のチェックを受けることになっている。当然必要限度の支出しか認めないということで進めているが、FIBAや各国のレギュレーションを参考にする上で、どうしても正確な翻訳の業務が発生し、そこには相当費用がかかってしまうので、そこは事情をご理解いただきたい。

・Jリーグが5年かけて準備したものを3ヶ月でやらなくてはいけないということで、川淵チェアマンの働きかけで日本サッカー協会やJリーグの関係者にも無償で協力をもらい、短期間で最低限のコストでできるように努力している。

・今の感触では新しいリーグにはほぼすべてのチームが参加できるのではないかと考えている。リーグの成功のためには、地域の協会の方々が行行政やチーム関係者とも協力して、地域の普及、強化をするということが非常に大きな要素になる。

7. その他

ミニバスに関して、全国大会の4校制限の撤廃やルール改正(一般ルールの適用)を求める要望、意見があり、それについてはミニからシニアまでの国内大会の再構および大会運営・管理組織の再編を検討するために設置した特別委員会の中で検討することとした。

以上